

「第3回・金融機関の若手職員向け勉強会」の成果と概要

第一部 基調講演：岸本稔氏（日本政策投資銀行 北海道支店 次長）

第一部では、日本政策投資銀行北海道支店の岸本次長より、「北海道の課題とイノベーションの必要性」について基調講演がなされた。

講演では、生産年齢人口の減少が見込まれる中で、北海道の製造品出荷額では加工組立型の構成比が全国と比べ小さいことや、設備投資では「能力増強」を動機とする割合が低く、製造業の設備投資額が30年前の半分に満たないという事実認識が共有された。

その上で、北海道の未来を託す産業は何か、食品産業、観光産業は北海道を支えてきた重要産業であるが、今のままで良いのか、進歩著しいIoTの活用によって、人口減少が進む北海道の経済・社会を救えないか、という問題意識が示された。



グループディスカッションの様子

第二部 グループディスカッション

第二部では、グループに分かれた受講生が、「産業のイノベーションのために地域金融機関ができること」というテーマについて討議を行った。

討議では、日本政策投資銀行の職員が各グループを巡回し、北海道産製品を世界レベルにするための方策や、北海道を世界レベルの観光地とするための方策について、議論に際してのアドバイスがなされた。

討議後には各グループから討議結果のプレゼンテーションがなされ、昆布や牛肉といった北海道産農産物のブランド化・高付加価値化のための戦略が示されたほか、「北海道でGAFAのような先端企業を生み出すには何が必要か」との問いかけに対し、「IT村を作って世界の技術者を呼び寄せる」といった提言がなされるなど、食品産業や観光産業、IT産業について、各自が考える問題意識が披露された。



討議結果のプレゼンテーションの模様